



2019年7月1日

日本鉄道労働組合連合会

## 貨物鉄産労「第35回定期全国大会」開催

# JR貨物の持続的発展と貨物鉄産労の飛躍へ総力を結集！

貨物鉄産労は、7月1日、「ホテルアソシア静岡」（静岡県静岡市）において、第35回定期全国大会を開催し、2019年度の運動方針を満場一致で決定した。

冒頭、執行部を代表して大杉正美中央執行委員長は挨拶に立ち、直近の地震や豪雨に触れ、自然災害への対応を求めつつ、組合員を守る観点から共済加入・増口についても呼びかけた。さらに、JR貨物の経営動向や貨物鉄産労を取り巻く諸情勢に触れたうえで、重要課題として①安全の確立、②新人事賃金制度、③交通政策課題、④組織拡大・強化、⑤参議院議員選挙について、所信を述べ、課題提起した。特に、来賓のJR連合国会議員懇談会会長の榛葉議員に対しては、今年1月の参議院代表質問での発言に謝意を述べ、第25回参議院議員選挙に出馬予定であることから「絶対に当選させなければならない」と決意を語った。

大会には、来賓として榛葉参議院議員、JR連合から荻山会長と中村交通政策部長、交運労協から慶島事務局次長、交運共済から松岡理事長が出席し、それぞれ激励と連帯の挨拶を行った。

その後、7人の代議員が質疑に立ち討議が行われた。4月から施行された新人事賃金制度の内容や制度運用に対する多くの発言によりさまざまな課題が示された他、政治活動への取り組み、要員問題に起因する労働条件・労働環境の課題、組織課題、業務課題、組織運営に関わる課題など、多岐に亘る発意があった。辻村書記長が安全確立をはじめとする諸課題解決にむけた集約答弁を行い、役員改選や大会宣言も含め、提案された議案すべてを満場一致で採択した。

最後に、大杉委員長の‘団結ガンバロー’三唱で、貨物鉄産労の今後の運動の一層の展開と、さらなる前進に向けて決意を固め合った。

